

厚生労働科学研究費補助金（移植医療基盤整備研究事業）
分担研究報告書

臓器提供を見据えた患者管理マニュアル改訂に関する研究

研究分担者 土井 研人 東京大学医学部附属病院・教授
研究分担者 横堀 将司 日本医科大学大学院医学研究科・教授

研究要旨：臓器提供を見据えた患者管理マニュアルを改訂し、不可逆的全脳機能不全患者の集中治療マニュアル2025改訂案を作成した。本マニュアルは今後さらなる知見を蓄積し、必要に応じ遅滞なくアップデートされるべきものである。

A. 研究目的

患者に救命・脳機能の回復のための懸命な治療が行われたにもかかわらず、結果として脳死に至る場合がある。診療チームは、患者が不可逆的全脳機能不全にある場合、患者家族へ十分な病状説明を行なった上で、共に治療方針を決めていく必要がある。その際、脳死下臓器提供を希望する患者および患者家族については、尊い意思を尊重するため、法的脳死判定が適切に施行された後、診療チームは患者家族の支援を行いつつ集中治療を継続することとなる。

本マニュアルは、脳死下臓器提供を希望する患者の権利を守るべく、診療チームが適切な患者管理を行うことができるよう意図して作成する。

B. 研究方法

現行の臓器提供を見据えた患者管理マニュアルは、令和2年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「5類型施設における効率的な臓器・組織の提供体制構築に資する研究－ドナー評価・管理と術中管理体制の新たな体制構築に向けて」（主任研究者 嶋津岳士、田崎修）で作成された“臓器提供を見据えた患者評価・管理と術中管理のためのマニュアル”である。

臓器提供を見据えた患者管理マニュアル改訂は、令和6年度厚生労働科学研究費補助金（移植医療基盤整備研究事業）「臓器提供に係る医療者教育に資する研究」（研究代表者 黒田泰弘）の事業として法的脳死判定マニュアル2024作成とともに実施した。

不可逆的全脳機能不全患者に対する集中治療は法

的脳死判定前から実施されるものであり、必ずしも臓器提供を前提としたものではない。よって、このマニュアルは不可逆的全脳機能不全患者に対する集中治療の継続性という観点から、名称を“不可逆的全脳機能不全患者の集中治療マニュアル2025”に変更し、法的脳死判定マニュアル2024との整合性にも留意して最新の科学データをもとに改訂した。

本マニュアルは成人および小児患者を対象として記述した。各項目は小児に関するエビデンスがない限り成人・小児共通として記載している。その上で小児において特記すべき内容を追記する体裁とした。

（倫理面への配慮）

該当なし

C. 研究結果

不可逆的全脳機能不全患者の集中治療マニュアル2025は改訂案を作成し、2025年4月にパブリックコメントを求める予定である。

D. 考察

本マニュアルは今後さらなる知見を蓄積し、必要に応じ遅滞なくアップデートされるべきものである。

E. 結論

臓器提供を見据えた患者管理マニュアルを改訂し、不可逆的全脳機能不全患者の集中治療マニュアル2025としてパブリックコメントを募集予定である。

F. 健康危険情報

G. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表

座長 黒田泰弘 シンポジウム 地域ドナーコーディネーターチームを作ろう！ 第52回日本集中治療

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし